

## つながろう 熊本地震ボランティア報告

6月18日～23日、日教組被災地支援・教育復興ボランティアの第5チームに高教組から4人が参加し、熊本市立秋津小学校の避難所運営スタッフとして、日勤、夜勤に分かれてボランティアにとりくみました。

### 高教組参加者勤務形態

日勤 8時30分～19時  
金子さん、藤原さん  
夜勤 19時～8時30分  
遠藤さん、伊藤さん



高教組から参加した  
遠藤さん、伊藤さん、金子さん、藤原さん

ボランティアに参加した方から報告をいただきましたので紹介します。

東日本大震災時は釜石高校が避難所になり、体育館で数日間過ごした。釜石では全国のボランティアから多くの支援を受けた。また、私は熊本城の一口城主である。思わず「そうだ、熊本に行こう」などとどこかで聞いたようなフレーズが頭に浮かび、本部に申し込み、1週間の旅に出た。

仕事内容は、避難所のトイレ等の掃除・食事の準備・ゴミ処理・子どもや高齢者の相手などだ。これを熊本市職員1人で行うが、日勤と夜勤に分かれて2交代制で手伝った。避難所の秋津小学校の避難者は約20人、7家族

程度に縮小していた。ただし、高齢者と子どもが多く、自治組織はできず、手伝いは期待できない。それでも、子どもたちは明るい。災害も行事のように変えてしまう天真爛漫さと、周りを元気にさせる活力を持っていた。家屋や電柱は壊れても、人の心は簡単には倒れないことを改めて感じた。ボランティアされた方々、ご苦労様でした。がまだせ！熊本。

不来方 金子 剛

私が熊本ボランティアに参加して感じたことは、①東日本大震災の時と同じように避難所の閉鎖までにはかなり時間がかかること。②熊本県は校庭に仮設住宅を作る気配がないこと。(岩手県の沿岸部には本当に場所がなかった)③益城町で亡くなった17名の方の中には圧死による即死がかなりあっただろうということ。④小さな子どもたちにはどこに行っても心洗われること等です。

活動中には地震が数回あり、また、50年に一度という豪雨に見舞われ、熊本がなぜこんなに苦しい目に遭うのかと思いました。日本は自然災害からは逃れられない。原発から再生可能エネルギーへの転換を急ぐべきだと深く思った次第です。ありがとうございました。

盛岡商業 遠藤 右



避難所の秋津小学校